

高等教育におけるキャリア教育の取組

入学

卒業

キ

後期中等教育と高等教育の連携

基礎的・汎用的能力の育成

正課教育

専門的能力の育成

カ 男女共同参画の視点を踏まえたキャリア教育

ア 入学前段階や入学初年次における、
後期中等教育からの円滑な接続や学びへの意欲の向上のための教育上の配慮

幅広い職業意識の形成に着目した授業科目

イ 教育課程の中に位置付けられたキャリア教育

専門分野の教育

ウ 入学から卒業までを見通したキャリア教育

専門分野の教育

エ

身に付けるべき知識や能力の明確化と到達度の評価

正課外教育

正課外活動
(学生支援)

・履修指導
・補習授業

・就職対策講座(PC、語学、ビジネスマナー等)
・資格対策講座

オ 一人一人のキャリア形成を促進させる支援

・自己分析・職業適性検査
・アドバイザーの配置

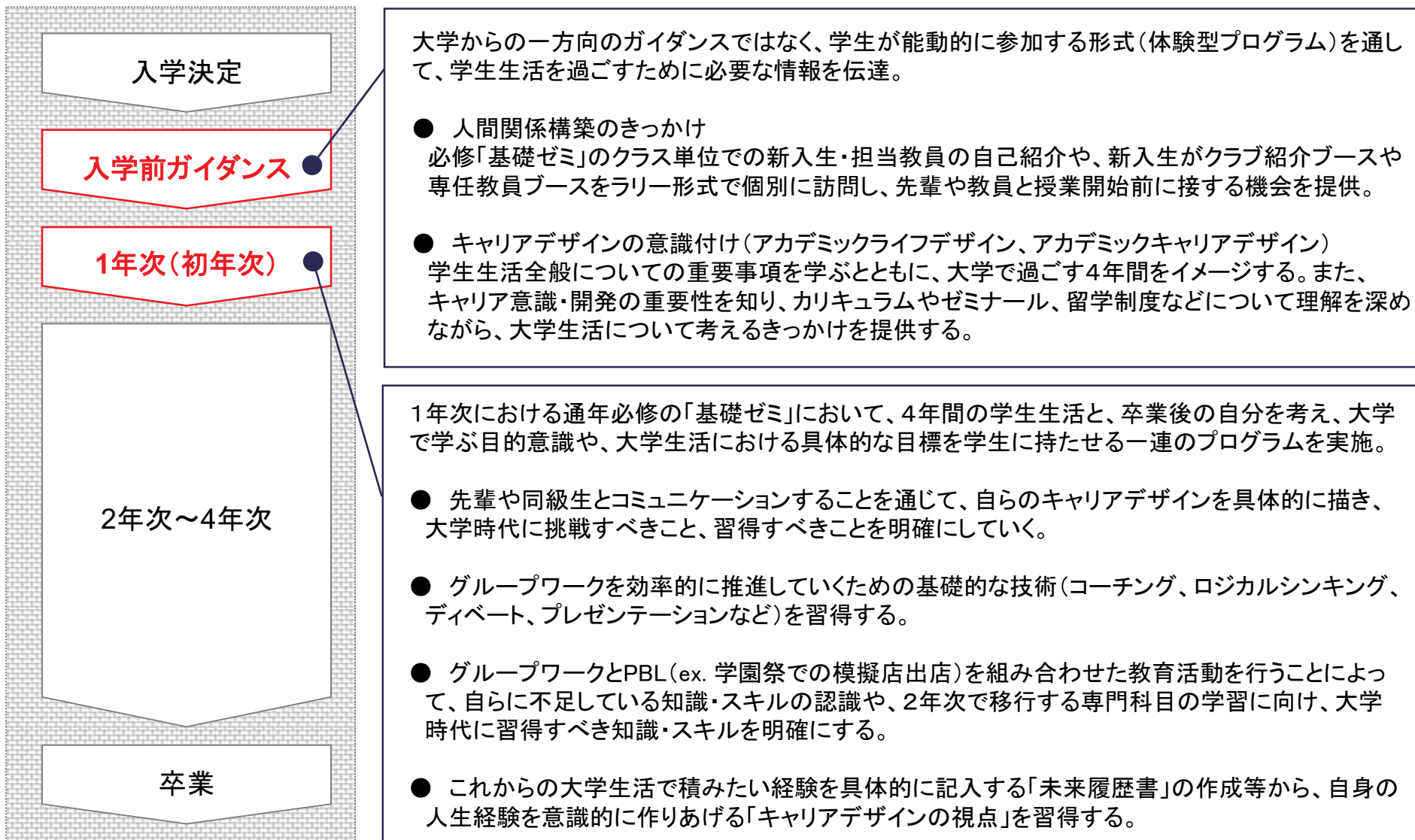
・キャリアセンターにおける進路・就職相談

・就職説明会
・学内企業説明会

(ア) 入学前段階や入学初年次における、後期中等教育からの円滑な接続や学びへの意欲の向上のための教育上の配慮

入学初年次において学生自身に学生生活と卒業後の自分を考えさせ、高等教育機関で学ぶことの目的意識を持たせることなどにより、キャリア形成を行う基盤を培うための取組を実施

(例) 嘉悦大学



参考URL: http://www.kaetsu.ac.jp/first_ed.html

(ア) 入学前段階や入学初年次における、後期中等教育からの円滑な接続や学びへの意欲の向上のための教育上の配慮

入学者の学習意欲の醸成、学習習慣の確立のため、高大連携校の高校教員と組織した研究会を設置し、問題意識の共有と解決策の検討を行い、大学での学習にスムーズに移行できるよう入学前教育を実施

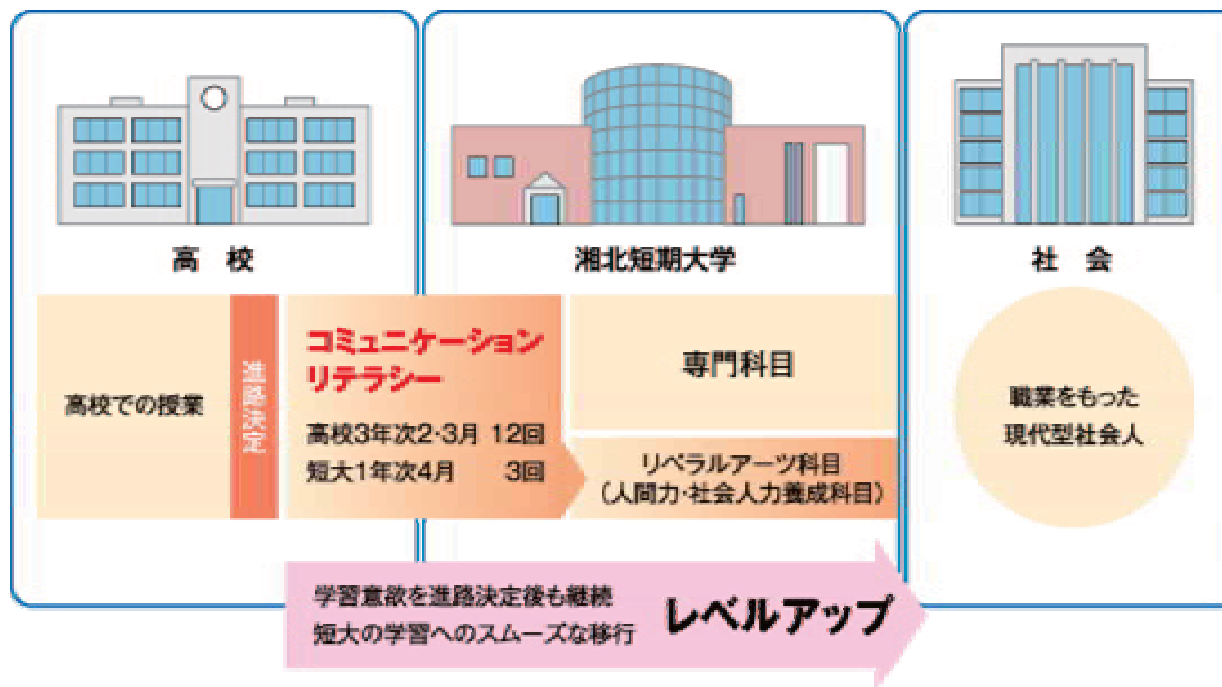
(例) 湘北短期大学

●コミュニケーションリテラシーの開講

企業・高校教員に対するアンケートの結果も踏まえ、将来社会人・職業人として必要な能力として、「コミュニケーション能力」が学生に特に求められていると認識。

また、入学者の学力低下の背景として、大学入学時の学ぶ意欲、学ぶ習慣が希薄であるという課題認識。また、早期に進学を決定した高校生の学習意欲維持について、高校教員との問題意識を共有。

そこで、平成19年度から、学生が高い目標意識の下に学ぶための「動機付け」を行うとともに、将来社会人として仕事をする上でコミュニケーション能力が重要であることを理解するため、連携高校の推薦入試合格者を対象として、高校在学中に「コミュニケーションリテラシー」を開講している。

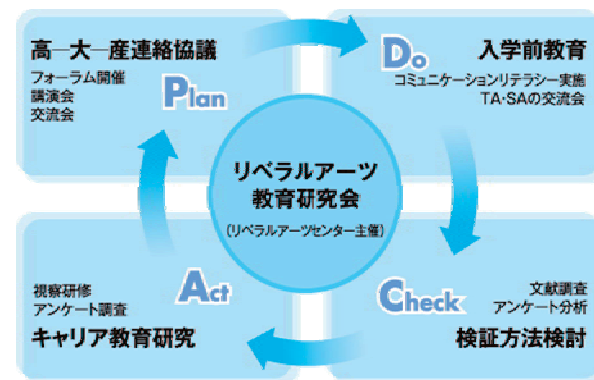


●リベラルアーツ教育研究会の設置

平成18年度より、連携高校の教員及び大学の全学科からの教職員が参加する連携協議会を設置しており、高校教育の実情を深く理解した上で、短期大学教育を最適化する取組を実施。



また、こうした取組も踏まえ、新たに企業人も含めたリベラルアーツ教育研究会活動を準備中。人材育成に対する要望や課題認識の共有等を行い、教育改善につなげていくための取組を行う。

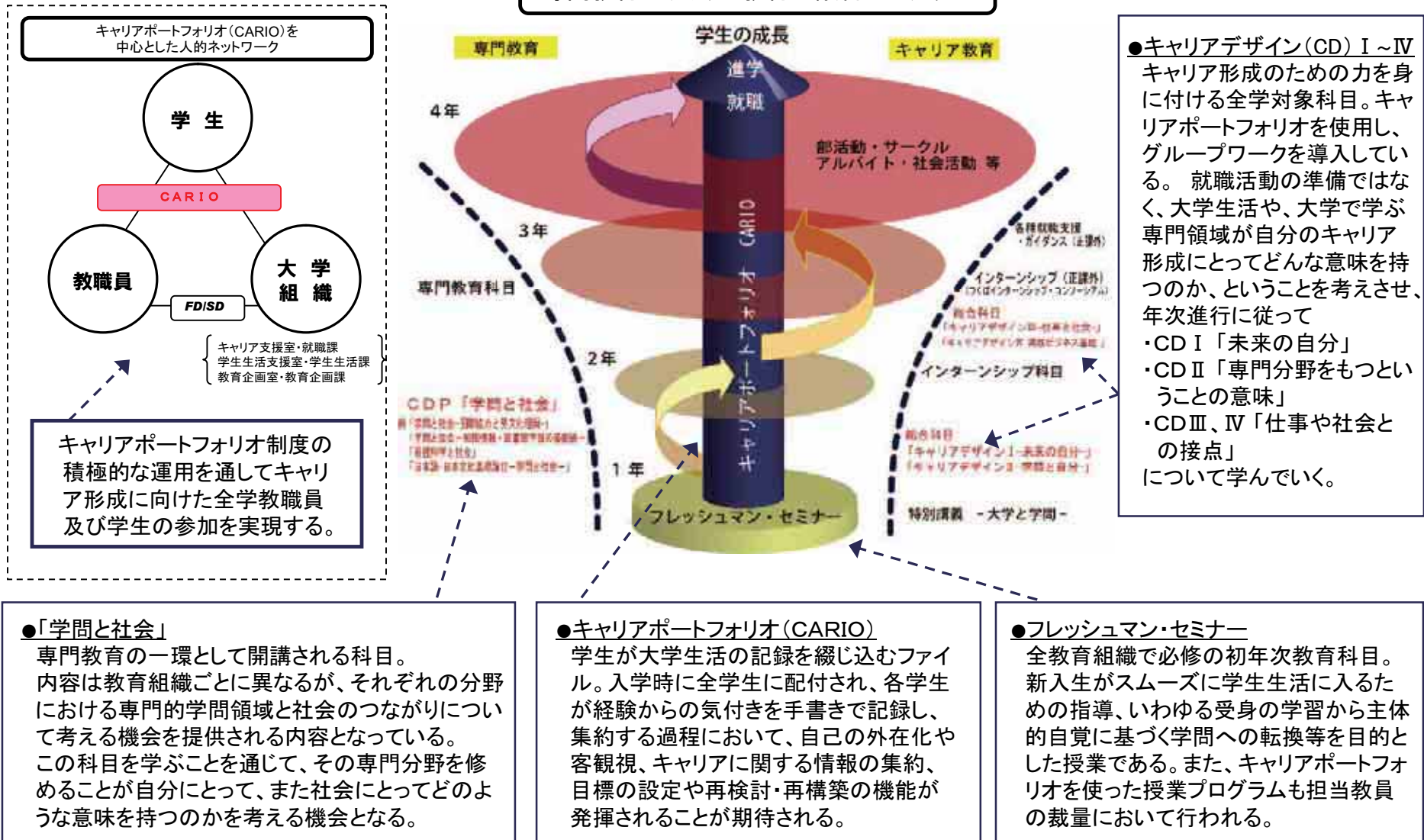


(イ) 教育課程の中に位置付けられたキャリア教育

教育課程全体において、専門教育とキャリア教育の融合を目指して、社会人・職業人への移行期としての、大学生生活を有意義に過ごすための各種プログラムを展開することを通じて、教職員・学生の人的ネットワークの拡充・活用を推進

(例) 筑波大学

専門教育とキャリア教育の融合プログラム



(ウ) 入学から卒業までを見通したキャリア教育

卒業後を見通したキャリアデザインに基づいたキャリア形成のため、入学時から各学年での学習成果を着実に積み上げることで、卒業後の進路実現と共に社会人・職業人として必要な能力を自ら培っていく取組を実施

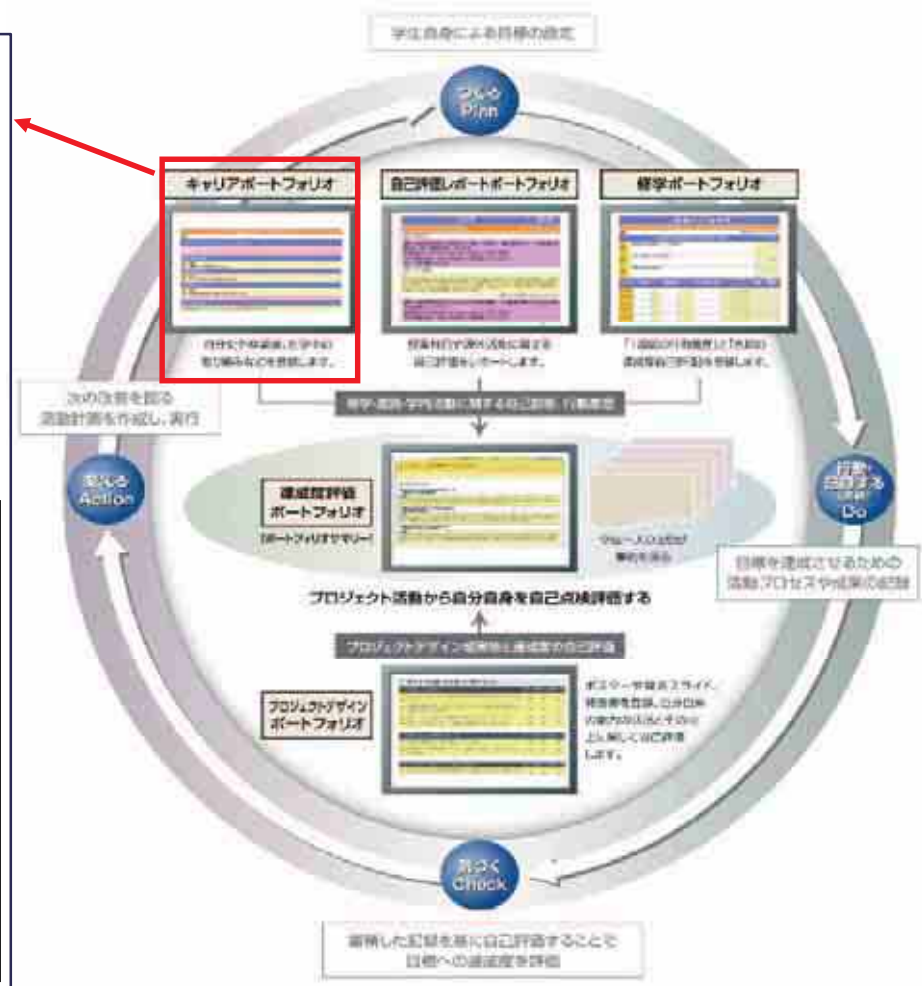
(例) 金沢工業大学

ポートフォリオシステムを活用して、正課内外における教育活動や、その達成度を記録し、自己点検評価を行う。また、自分の将来の目標設定と、その達成に向けた具体的な行動目標設定、行動目標とその結果の明確化によるキャリアデザインの自己管理等を行う取組を実施している。

キャリアポートフォリオは、卒業後を見据えて、1年次から自立・自立的に各自の可能性を広げる行動を開始することが求められること、一度描いたキャリアデザインは時間とともに変化し、人生の節目ごとに描き直す必要があることなどを念頭に設計されている。具体的には、社会に出た後も自己成長型のキャリアデザインとキャリア形成を進めることができるようにするため、自分史、自己実現目標などを記録するワークシートを用いて、随時それを各自の自己点検に活用することを習慣化するレベルで身に付けさせ、目標への接近度や達成度を確認しながら次の行動設計に反映させる力を育成する取組を行っている。

【キャリアポートフォリオ(ワークシート) イメージ図】

The image shows two pages of a worksheet. The left page is for '入学時' (at the time of entry) and the right page is for '卒業後' (after graduation). Both pages contain a list of questions for self-reflection, such as 'What are your career goals?' and 'How do you plan to achieve them?'. The questions are numbered and cover various aspects of career planning and personal growth.



(ウ) 入学から卒業までを見通したキャリア教育

入学から卒業までを見通してキャリア形成を行い、各学年での学習成果を着実に積み上げることで、卒業後の目標に向けて社会人・職業人として必要な能力を自ら培っていく取組を実施

(例)阿南工業高等専門学校

【キャリアデザインワークブック 表紙、目次等(抜粋)】

低年次から卒業後のビジョンを開かせるため、教育課程早期からの職業指導推進プログラムを実施している。1～3年次での特別学級活動と、4年次における校外実習(インターンシップ)を有機的に結合させることによって、高専本科教育の早期段階から総合的にキャリア教育を推進し、確固たる職業観・倫理観を持たせることで、5年次の就職活動等につなげることを目的とした取組を実施している。

プログラムの中では、企業人等を招いたセミナー等の開催や、学校独自に教材(キャリアデザインワークブック)や教員向けの指導マニュアルを作成し、それに基づいた体系的なキャリア教育が行われている。

【職業指導推進プログラム 全体スケジュール】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年生	エンジニアとは						どのように勉強すべきか?					
	エンジニアの仕事について						資格取得について					
2年生	エンジニアに対する社会の要求 (公害・環境)						5年生の就職試験体験談					
	本校卒業生の体験談						4年生の校外実習体験談					
3年生	校外実習のガイダンス						エンジニアに対する社会の要求(企業倫理)					
	実習期間および発表準備			発表			目標設定			調査(企業研究)		
4年生	自己分析			面接訓練			就職活動期間			学生時代の総まとめ(卒業研究)		
5年生	就職準備(スキルアップ)											

阿南高専生の
キャリアデザイン
ワークブック

1 阿南高専生のキャリアデザインワークブックの目次

1. 高専1年生のキャリアデザイン

- 1-1 高専生活に必要な能力の取得
- 1-2 社会に出て働くための準備
- 1-3 企業と社会
- 1-4 高専で学びながら身につけていかなければならないキャリアデザイン能力の育成

2. 高専2年生のキャリアデザイン

- 2-1 会社の組織とエンジニアの仕事
- 2-2 企業にとってのエンジニア人材とは
- 2-3 必要とされるスキル・コンピテンシー
- 2-4 先輩卒業生の体験談

3. 高専3年生のキャリアデザイン

- 3-1 業界研究と企業研究
- 3-2 自分を知り、自分を知ってもらう
- 3-3 インターンシップ参加の目的と意義
- 3-4 就職・進学の手続き

4. 高専4年生のキャリアデザイン

人生の成功の鍵は次の3つ

- ・目標を定めると
- ・実行すること
- ・失敗してもあきらめないで

(エ) 身に付けるべき知識や能力の明確化と到達度の評価

教育課程を編成・実施するにあたり、各授業科目及び教育課程全体を通じて学生にどのような能力をどの程度身に付けさせるかを明確化

(例) 東京女学館大学

社会で必要とされる基礎力として、「10の底力」を設定し、すべての授業科目でこれらのうちどの能力を育成できるかを明確にした教育を行う取組を実施している。

また、授業や各種行事において学生の「底力」を高めるため、効果的な方法を学ぶFD・SD体制を充実させ、学生1名に対して教員1名が履修計画や進路に関するアドバイスをを行うとともに、伸ばしたい「10の底力」がその学生のキャリアプランに合っているかどうか、キャリアカウンセラーが相談に乗る体制を構築している。

semester終了ごとに学生と教員それぞれが能力の到達度を評価し、レーダーチャートで示すことにより、学生は次のsemesterの履修の参考にする。卒業時には、4年間で10の能力の成長度を学生に提示する。



【卒業成長値を高める10の底力】

- ① コミュニケーション能力
- ② プレゼンテーション能力
- ③ ディスカッション能力
- ④ 国際感覚・多文化理解能力
- ⑤ 外国語運用能力
- ⑥ 調査能力
- ⑦ IT能力
- ⑧ クリティカル思考
- ⑨ コンセプチュアルスキル (問題発見・提案・実行力)
- ⑩ 自己理解能力

各授業科目で育成される「10の底力」は、マッピング表において学生に示されている。シラバスについても、能力に対応した授業科目の検索が可能となるよう工夫がなされている。

(エ) 身に付けるべき知識や能力の明確化と到達度の評価

教育課程を編成・実施するにあたり、各授業科目及び教育課程全体を通じて学生にどのような能力をどの程度身に付けさせるかを明確化。

(例)三重大学

学生の「4つの力」を育成することを教育目標として掲げ、その達成に向けた体制整備及び取組が教養・専門教育を通して実施されている。

【具体的な取組等】

(1)PBL: (H17年度～)

問題発見解決型学習、能動的学習、グループ学習、形成的評価などを特徴とする授業スタイルは、4つの力の育成に効果的かつ各授業における学習内容を変更することなく導入できることから、PBLを全学的に展開することを目指したFDや支援プログラム等を継続的に実施。



(2)eラーニング: (H18年度～)

授業の効率化、学生間・学生と教員間のコミュニケーションの促進、ひいては「4つの力」の育成にも効果的であるオープンソースの学習管理支援システムMoodleをカスタマイズし(「三重大学Moodle」)、全学的に展開することを目指したFD等を継続的に実施。



(3)初年次教育科目: (H21年度～)

三重大学の教育目標の理解、学習の動機付け、学習スキルや社会的スキルの獲得などを目的として、全学を対象に「4つの力 スタートアップセミナー」を開発。全体を通してPBLが導入されるとともに、各回の授業では、プロジェクトと関連付けて、「4つの力」に関わるテーマの講義・討論及びリフレクションシートやeポートフォリオを活用した修得能力の省察を実施。

【三重大学「4つの力」】



【「4つの力」及びその下位項目(構成要素)】

- ・「感じる力」:
感性、共感、倫理観、モチベーション、主体的学習力、心身の健康に対する意識
- ・「考える力」:
幅広い教養、専門知識・技術、論理的思考力、批判的思考力、課題探求力、問題解決力
- ・「コミュニケーション力」:
情報受発信力、討論・対話力、指導力・協調性、社会人としての態度、実践外国語力
- ・「生きる力」:
感じる力、考える力、コミュニケーション力を総合した力

(第2期中期目標・中期計画(案)より抜粋)

「4つの力」は、「学士力」等の社会から求められている力との整合性も考慮され、知識・理解だけでなく、汎用的技能や態度・志向性とともな社会的能力等の総合的な能力も含むものとして設定されている。

(4)修学達成度評価システム: (H17年度～)

アンケート調査の回答に基づいて、学生の「4つの力」の評定値を算出する評価システムを開発し、学習の省察(学生)及び教育の達成度評価・改善(大学)に活用する取組を継続的に実施。



参考URL: <http://www.hedc.mie-u.ac.jp>

(オ) 一人一人のキャリア形成を促進させる支援

学生支援など正課外活動を通じて、一人一人のキャリア形成を促進させる個別支援を行う取組。入学段階から学生一人一人のキャリア形成を支援するため、アドバイザーの配置やキャリアカウンセリングを行う取組を実施。

(例) 金城学院大学

●全教員によるアドバイザー制の導入

教員が学生と定期的に面談し、学習面、学生生活面等を個別に支援するアドバイザー制をすべての学年において導入している。アドバイザーは担当する学生と定期的に面談し、学習面、学生生活面のみならず、キャリア面での指導にもあたる。

例えば、個別の学生の状況に応じ、キャリア相談コーナーの利用を薦めるなど、学内の関係部局との連携の起点にもなっており、学内の関係部局と連携して、きめ細やかな支援を実施する体制を整えている。

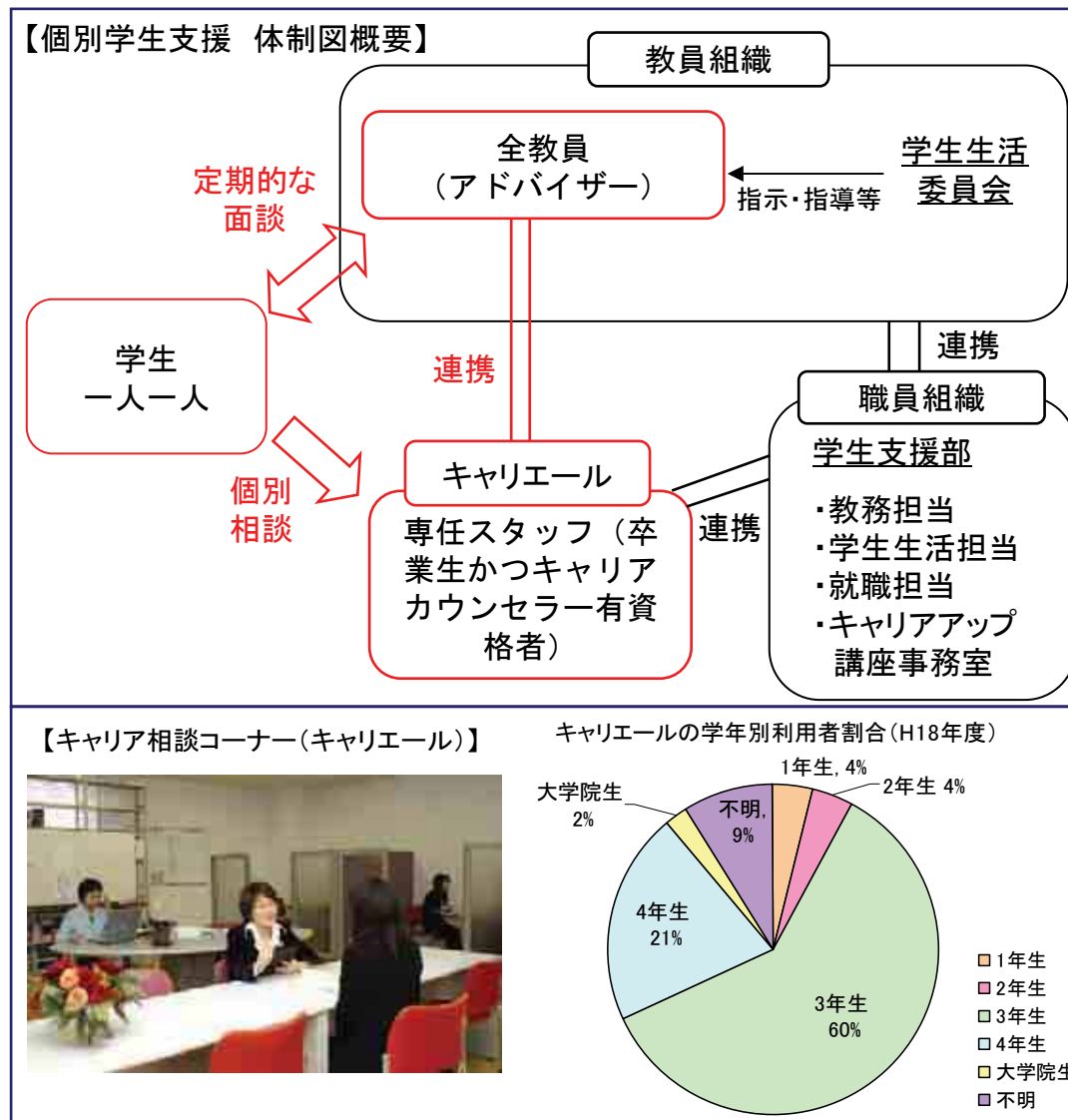
●キャリア相談コーナー「キャリエール」の設置

キャリアカウンセラーや専門分野での職務経験のあるスタッフ等の専任担当者が常時配置され、入学後の自己分析から職業選択・就職活動まで、キャリア形成全般にわたる相談が可能な相談コーナー「キャリエール」が開設されており、学生は個別にカウンセリングを受けることができる。

キャリエールのスタッフは、3年生全員を対象とした個別面接とグループ面接を行うなど、個別カウンセリング以外にも学生への支援を行う機会を設けている。

<主な相談内容>

- ・将来のために何をしたらいいのかわからない
- ・自分に向いている職業が知りたい
- ・夢はあるが、実現は可能だろうか
- ・大学院に進学すべきか、就職すべきか迷っている
- ・なかなか内定を得られず自信をなくしている
- ・面接でうまく自己アピールできない
- ・自分の希望進路を家族に反対されている など



(オ) 一人一人のキャリア形成を促進させる支援

学生支援など正課外活動を通じて、一人一人のキャリア形成を促進させる個別支援を行う取組。入学段階から学生一人一人のキャリア形成を支援するため、担任の配置やキャリアカウンセリングを行う取組を実施

(例) 名古屋工学院専門学校

一つの専門分野を捉えても、対応する業種・職種は様々であり、学生の適性、希望する業種・職種、技術力は一人一人異なることを踏まえ、クラス担任とキャリアセンターの専任スタッフが協働して、授業「キャリアガイダンス」及び学生一人一人に対する個別指導を行っている。

授業「キャリアガイダンス」では、自己理解や自己分析に重点を置きつつ、ヒューマンスキル等の向上を目指した授業が行われ、キャリア形成・就職活動に向けて分野を問わず必要な能力の育成が目指されている。

また、担任の教員との毎月の個別面談や日々のコミュニケーションの中では、学生の考えや性格、能力に応じたアドバイスが行われており、学生一人一人に合った業種・職種の理解の促進や、将来に向けて必要な技術の習得及び資格取得に向けての動機付けなどの就職支援、生活指導や学習指導、悩み相談にも個別に対応し、必要に応じて心理士によるカウンセリングも行っている。

また、就職に際しては、担任及びキャリアセンターの専任スタッフが、各学生に合う応募先の情報提供、応募書類の書き方、面接試験対応など、幅広く相談を受ける体制を整え、学生一人一人に合う業種・職種・会社の紹介を行っている。

① キャリア形成支援

<キャリアガイダンス>

(週1回、担任、キャリアセンター専任スタッフが担当)

【主な授業内容】

- ・ヒューマンスキル
- ・基礎学力向上
- ・自己分析、理解
- ・社会人としての常識、マナー
- ・業界研究
- ・就職試験対策 など

・クラス担任
・キャリアセンター
専任スタッフ

授業

<技術教育>

(各科目担当教員が担当)

- ・座学、実験、実習
- ・業界の技術動向 など

クラス

個別支援

・クラス担任
・キャリアカウンセラー

学生
一人一人

授業

科目
担当
教員

<個別面談>

(担任、及びカウンセラーが適宜担当)

- ・学生の性格、能力の理解
- ・悩み相談
- ・アドバイス

派遣

企業

<インターンシップ>

- ・企業実習
- ・事後の実習報告会

② 就職支援

- ・応募会社の紹介
- ・履歴書、エントリーシート
確認、指導
- ・就職試験指導
- ・面接試験指導 など

科の主任、科長

個別指導

キャリアセンター
専任スタッフ

個別支援

学生
一人一人

個別支援

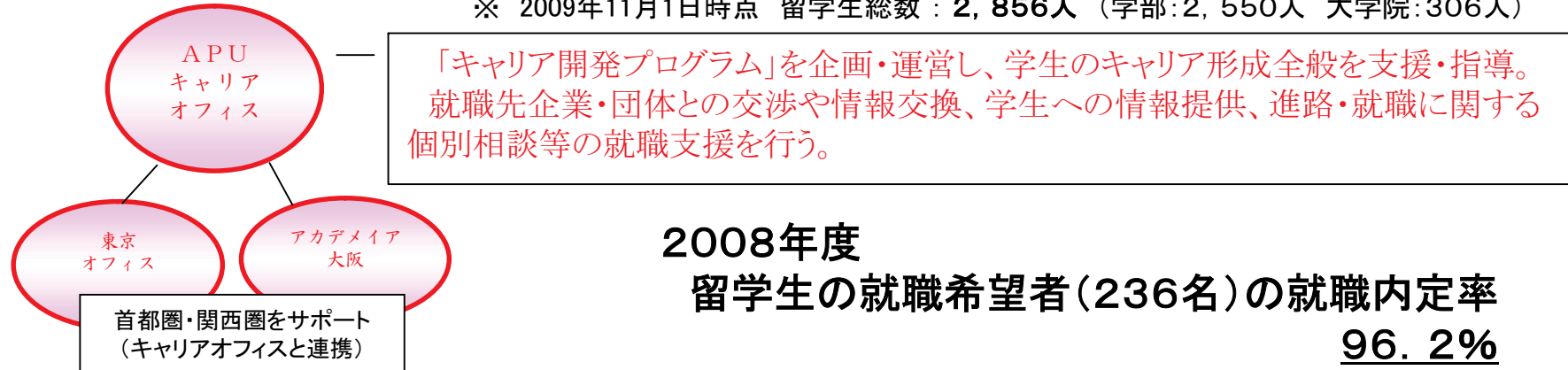
クラス
担任

(オ) 一人一人のキャリア形成を促進させる支援

入学段階から卒業時まで学生一人一人のキャリア形成を支援するため、留学生・日本人学生合同で「キャリア開発プログラム」等の取組を正課内・正課外活動として実施

(例) 立命館アジア太平洋大学

※ 2009年11月1日時点 留学生総数：2,856人（学部：2,550人 大学院：306人）



2008年度

留学生の就職希望者(236名)の就職内定率

96.2%

【1】入学直後から取り組む「キャリア開発プログラム」の実施（日本人学生と合同）

- | | | |
|-------|-------|--|
| STEP1 | 1回生 | 全ての学生を対象に「進路意識調査アンケート」を実施し、それに基づき進路や履修に関する指導・相談を実施。 |
| STEP2 | 1～2回生 | 国際的な企業や団体のトップをなどの講演会や、OB・OGとの懇談会の開催により、大学ですべきことを理解させる。 |
| STEP3 | 1～3回生 | 国内外企業・団体・自治体などで実務を体験する「インターンシップ」への参加を支援し、より目標を明確にする。 |
| STEP4 | 3～4回生 | 国内外企業・団体からの求人情報を提供。学生の希望やスキルを把握した上で、就職活動方法の指導や個人面談により支援。 |

【2】オンキャンパス・リクルーティングの実施（日本人学生と合同）

- 企業・団体の人事担当者をキャンパスに招き、説明会や懇親会だけでなく採用試験や面接をキャンパス内で実施。
(2009年度 340社が来学実施)

【3】インターンシップ・プログラムの実施（日本人学生と合同）

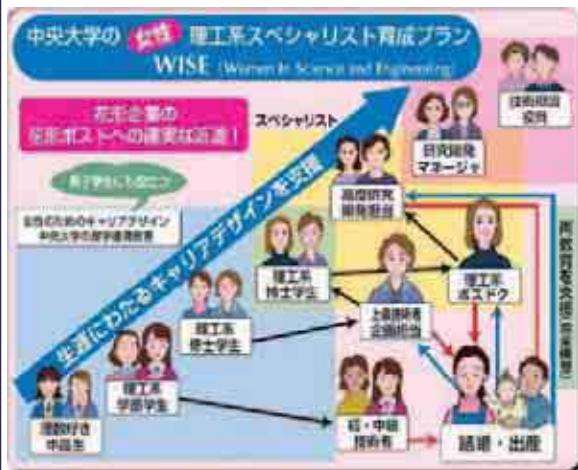
- 学生のニーズに対応し、国内の企業・団体や海外を拠点とする国際企業での実務を体験。インターンシップ先は、大学と企業等が協定を結び実施する「協定型」と学生が情報を入手して独自に行う「独自型」があり、一定の条件を満たした場合は単位を付与。
(2008年度は「協定型」において100人以上の学生が60企業・団体にインターンシップに参加。)

(カ) 男女共同参画の視点を踏まえたキャリア教育

女性の多様なキャリアを意識したキャリア教育や、卒業生等の社会で活躍する女性に接する機会を設けるなどの取組を、正課内外において実施

(例) 中央大学

【WISE Chuo 概要図】



正課内の取組:

企業で活躍する女性研究者・技術者を講師として招き、学部1～3年次の女子学生を主たる対象に、少人数のセミナー形式で、様々な研究開発事例や技術課題の取組を紹介する授業を行っている。こういった取組の紹介を通じて、大学で学ぶ科学技術の基礎と産業界でのその応用の関係を認識させるとともに、女性研究者・技術者に期待される役割を認識させる。

このような具体的事例を題材とした課題演習やPBLに取り組むことにより、学生がより具体的に、科学技術の基礎の理解とその産業応用との関係を理解するとともに、ロールモデルとなる女性との身近で密な交流を通して、学生が自分自身のキャリアを意識した積極的なキャリア形成を行い、専門家への志向を強化する取組を行っている。

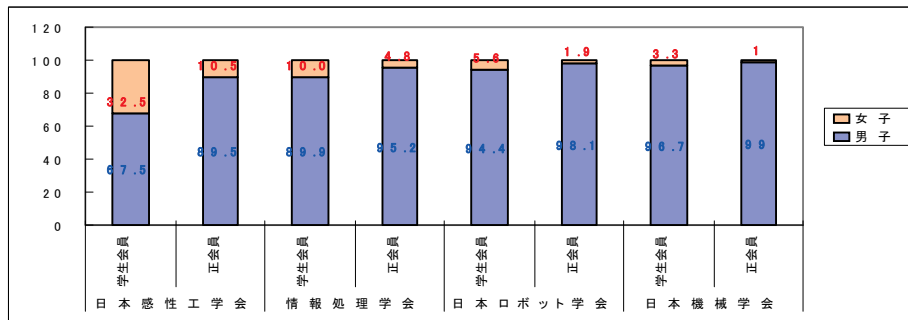
正課外の取組:

本学の卒業生を含む、産業界で活躍している若手中堅・ベテランの各層からの女性研究者・技術者を招いた講演会や、企業(研究開発の現場)の見学会を開催し、女性研究者・技術者としての仕事・結婚・出産・育児休暇後の仕事の継続方法等、様々なライフステージについての理解も深めつつ、各自のキャリアプランの設計方法について学ぶ取組を行っている。

男子学生と学ぶ男女共同参画:

男子学生にも、このようなロールモデルとなる女性からの講義や交流を通じて、女性研究者・技術者に期待される役割や、女性が様々なライフステージで能力を発揮できるようにするために、男性が果たすべき役割を、学生の間から理解させている。

(参考1) 感性産業・情報通信産業における男女共同参画の現状



【図】学会を構成する学生・技術者・研究者の男女構成比

(各学会より資料提供)

- 女性の活躍が特に期待されている感性産業分野・日本感性工学会であっても、各学会正会員数に対する女性の比率は高くはない。
- 学生(大学院生を含む)時代には当該分野の学習をしておきながら、正会員(研究開発の仕事に従事しているものと考えられる)になる割合が低いことから、職業としては研究開発職に就かない女子学生の比率が高いといえる。

(参考2) 情報通信産業における女性専門職の採用割合(実績)と採用側の希望

	2007年	2008年	2009年
A社	27.5	36.2	37.6
B社	11.5	14.5	14.7
C社	10.2	9.7	10.9

【表】技術系女性採用者比率(データは協力企業からの情報に基づく)

【企業からのコメント】

- 「(性別に関係なく)優秀な学生を採用する」のが目的なので、「女性の採用目標」は設定していないが、結果的に技術系女性の採用比率が伸びている。
- 女性比率についてはもう少しアップさせたいと考えているが、応募してくる技術系女性の人数そのものが少ないこともあり、なかなか思うようには向上していない。

参考URL: <http://www.hm.indsys.chuo-u.ac.jp/girls/index.html>

(カ) 男女共同参画の視点を踏まえたキャリア教育

女性の多様なキャリアを意識したキャリア教育や、卒業生等の社会で活躍する女性に接する機会を設けるなどの取組を、正課内外において実施

(例) 福岡女子大学

専門教育も含めて、大学の4年間の学習を、女子高度教養教育として構築する改革の中で、女子学生の「キャリア(人生)形成」と「男女共同参画社会の実現」を目指す取組を行っている。

具体的には、社会の中で女性が置かれている状況の理解のための授業や、女性の多様なキャリアを意識させるための授業科目(「女性学・ジェンダー論」等)を開設する取組を行っているほか、現代社会で活躍する女性に求められる基礎力を養成する女子専門の高等教育機関として、女子学生のキャリア意識・ジェンダー意識の向上、知的実践能力の向上、実践的コミュニケーション能力の向上を目指す「女子高度教養教育」の実現を図るなど、社会人・職業人としての自立に向けた能力育成を重視し、大学教育の中に位置付ける取組を行っている。



<具体的な取組例>

職業キャリア導入教育科目の「人生・職業・社会」、「キャリアデザイン」において、授業方法を工夫し、学生の意識と能力の向上に努めている。

「人生・職業・社会 I・II」(1年次前期・後期)

人生・職業・社会の現実を知ること及びそれに自分がどう関わっていくかを考えることを目的とした授業。
予めウェブ上の講義ビデオの内容に関する400字の作文を書いて授業に臨み、授業では各自の作文を基に、3人組での討論(三角(参画)討論)及び全体討論を行う。

「キャリア・デザイン I・II」(2年次前期・後期)

ゲストスピーカーとして前期は卒業生、後期は卒業生に限らず社会で活躍する女性を講師として招き、講師からの講話及び学生と講師との対話を行う。教員は授業のコーディネイト役として参加する。
対話後に学生は講師への「お礼の手紙」を書く。

福岡女子大学の特色

- ①あらゆる機会を捉えてキャリア教育を行う。
- ②学問キャリア導入教育と職業キャリア導入教育を学生教育の両輪とする。
- ③読み書き討論能力を重視し養成する。